〈解　説〉

最近の野菜の生産動向

最近における果実の生産動向は，前号に述べたとおりだが，本号では野菜の生産動向をみよう。もちろん，その全般を展望することは不可能なので，残りが中断されることをお断りしておく。(紙面が許せば次号に掲載する。)

野菜の生産額

野菜の生産量は年々増加しているが，と角価格が不安定である。とくに43年は豊作年であったので，価格は非常に下落し，総生産額は前年を下回った。

農業所得統計によると，43年の野菜総生産額（粗生産額）は4,676億円で，農業総生産額の11.1%に当るが，前年比生産額では，4.8%，占有率も1.1%減少した。しかし，過去5カ年の野菜生産の伸びは年率13.4%で，他の作物に比してかなり高率である。

この中でも，果菜類が一番高く，過去5カ年の伸びは年率17.8%，次ぎが葉茎菜類で15.6%，根菜類は6.6%である。

〔**地域別生産額**〕…地域別にみると，関東，東山が圧倒的で，全国野菜生産額の33%，次ぎが東海の13%，九州，東北の10%である。また各地域の野菜生産の依存度を，農業総生産額に対する野菜生産額の割合からみても，やはり関東，東山が17.4%と高い。とくに南関東の25.0%は，この地域が野菜生産に最も適した都市近郊地帯における特性を物語るものであろう。

これに続いて東海16.5%，近畿15.6%，四国15.1%となっている。四国は生産額は少ないが，中京，京阪神市場を控えているので，野菜生産には意欲的である。

県別に42年の生産額をみると，100億円を超える県は15ほどある。中でも千葉県は374億円でトップ，愛知県272億円，埼玉県271億円，茨城県227億円，静岡県207億円の順となっている。

以下15位までの府県と北海道を入れると，全国の野菜生産額の60%となる。つまり，野菜の供給は，これら特定の生産県で賄っていることがわかる。

野菜の地域別生産額（42年）

地域別		野菜生産額	農業粗生産価額に対する野菜の割合	地域別構成比
		100万円	%	%
全国		486,409	12.1	100.0
北海道		26,163	8.7	5.4
東北		48,648	7.3	10.0
北陸		22,269	7.2	4.6
関東・東山		162,667	17.4	33.4
	北関東	77,633	15.3	(28.5)
	南関東	60,810	25.0	
	東山	24,224	13.1	—
東海		64,585	16.5	13.3
近畿		47,881	15.6	9.8
中国		29,962	9.2	6.2
	山陰	7,312	8.6	—
	山陽	22,650	9.4	—
四国		34,175	15.1	7.0
九州		50,059	9.0	10.3
	北九州	33,291	8.0	—
	南九州	16,768	10.1	—

農業所得統計による

野菜の収穫量

根葉類の低下傾向に反し，最近，果菜類，葉茎菜類の増加は著しい。これらについて昭和34年から43年までの10カ年間の増加状況をみると，2倍以上になったものは，きゅうり，とまとなど7品目に達している。

とくにピーマン，レタスなどの洋菜類のごときは，過去5カ年間に3倍から4倍という驚異的な増加振りを示しているものもある。もっとも果菜類の中にも，かぼちゃのように若干減少を示しているものもある。

これに反し，根菜類や未成熟豆類などの収穫量は，全般的に伸び悩み，にんじんや未成熟大豆（えだまめ）の増加がうかがえる程度である。減少が目だつものには，さといも，れんこん，未熟えんどう，未熟そらまめで，かぼちゃ同様，これらはようやく過去の野菜となるようだ。

〔**主要野菜の収穫量と生産県**〕…主要野菜の収穫量について県別占有率をみると，全国収穫量の10%以上という大きなシェアを有する生産県は少ないが，それでも主産地化の傾向は一般的に強く，上位数県の生産動向が，全国収穫量の動向を左右することも，まれではない。

次に，主要野菜別に収穫量（43年）の占有率が高い上位5県について，その生産動向を見よう。（但し，紙数の都合で，前述した通り，中断することがあるのであらかじめお断りしておく。

※きゅうり

43年の全国収穫量は983,600トンで，10年前の34年当時に比べると，約2.6倍になっている。

43年度収穫量の県別占有量は

①千葉　7.8%　　④福島　5.8%

②高知　6.6%　　⑤茨城　4.8%

③埼玉　6.4%

の順で，37，38年当時は埼玉，茨城の占有率が高く，他

県を抑えていたが，千葉，高知，福島などが増加するにつれ，占有率は平準化するようになってきた。

また，34年から37年頃まで，4～7％の占有率を示していた神奈川県や東京都などは40年代になって他県にその地位を譲ってしまった。これは「都市近郊野菜」は遠隔地野菜に，その地位をとって替わられていることを物語るものだろう。

各産地の特徴…各生産県にはそれぞれ特徴があり，

・千葉―東葛産地（野田市，流山市，松戸市，柏市，我孫子市，沼南町，鎌ヶ谷町，市川市，船橋市）を主とした春もの，夏もの，九十九里産地（大網白里町，一宮町）などを主とする秋ものの生産が多い。

・高知―香美南国産地（土佐山田町，野市町，南国市，吉川村など）を主とする冬もの，安芸産地（室戸市，奈半利町，田野町，安田町，安芸町，芸西村，夜須町，土佐山田市，南国市）を中心とする春ものの生産が多く，年末から年始にかけてのハウスものの生産は，宮崎とならび双へきをなしている。

〔注〕ここにいう〝産地〟は，当該季節区分別野菜の生産量が全国的にみて多く，しかも比較的市場への出荷率の高い野菜生産地（数市町村の範囲）を指すもので，農林省統計調査部が，主として野菜産地情報を得るために設定されたものだが，産地名称は，全国的に知名度の高い代表的な地名などが採用されている。）

・埼玉…県下全域にわたって生産される春もの，夏ものが主であるが，それらの主産地としては，

イ，岩槻市，越谷市，八汐町，吉川町，三郷町などの埼葛産地

ロ，本庄市，美里村，上里村，深谷市，妻沼町，豊里村行田市，加須市，羽生市，騎西町，川里村などの北部産地

ハ，川口市，浦和市，大宮市，上尾市，与野市，草加市川越市などの南部産地

が挙げられるが，夏ものの秩父産地（秩父市，小鹿野町など）も見落せぬ産地となっている。

・福島…は昭和30年後半から著しく生産が伸び，とくに郡山市，須賀川市，光瀬村，長沼町，鏡石町，天栄村などを主とする須賀川産地の秋ものの生産量は，他の生産県の追随を許さない。

・茨城…は古河市，八千代村，石下町，水海道市，三和村，総和町，古河市，境町，猿島町，岩井町など常総産地の夏ものの生産が多く，また秋ものもかなり生産しており，春から秋まで万遍なく出荷しているのが特徴。

※　と　ま　と

43年の全国収穫量は849,500トンで，34年に比し約4.3倍と飛躍的に増加した。

県別占有率では

①茨城　11.2％　　④愛知　5.3％

②長野　11.1％　　⑤栃木　4.0％

③千葉　8.2％

となっている。

・茨城，長野県は30年後半から40年代にかけて，これまでの主産県千葉をおさえ，互に拮抗して生産量をのばしている。

・千葉は39年頃から生産量は激増しているが，占有率は横ばいである。茨城，長野，千葉の3県で全国の30％，愛知以下の占有率はいずれも低く，かなり分散している。

しかし，冬とまとでは，土佐市を中心とする，全国でも屈指の産地を有する高知を逸する訳に行かない。

・茨城…常総産地を主とする夏もの，春ものが主である。

・長野…県下全域にわたる信州産地（佐久市，小諸市，御代田町，望月町，立科町，北御牧村，武石村，丸子町長門町，和田村，青木村，伊奈市，飯島町，南箕輪村，駒ヶ根市，箕輪町，中川村，宮田村，松本市，塩尻市，朝日村，波田村，山形村などを中心とする周辺地域）の夏もの一本の生産に重点をおき増産の実をあげている。

・千葉…は九十九里産地と京葉産地（野田市，柏市，沼南町，松戸市，船橋市，八千代市，市原市，木更津市，富津市，流山市，千葉市）を主とした春もの，東葛産地を主とした夏ものの生産が多く，全体としてかなり生産増加となっているが，伸び率は茨城，長野にくらべやや低い。

・愛知…東三河産地（豊橋市，豊川市，田原町，赤羽根町，渥美町），西三河産地（碧南市，刈谷市，安城市，西尾市，一色町，吉良町，岡崎市，幸田町，豊田市，三好町）を主とする夏ものと，海岸部や東三河一帯の春ものが多い。

・栃木　安立産地（佐野市，足利市）を主とする春ものと，芳賀産地（茂木町，市見村，益子町，芳賀町，真岡市，二宮町，宇都宮市）を中とした夏ものの生産が多いが，最近はハウス栽培の生産が増加している。

あとがき

農業環境が何かとさわがしい折柄にも拘らず皆様には，ますますご活躍のことと存じます。3月号をお届けします。

今のところ，まだ題号と内容がマッチしないので汗顔の至りですが，次第にご期待にそうよう編集するつもりです。　（K生）